

経営比較分析表（平成29年度決算）

秋田県 北秋田市

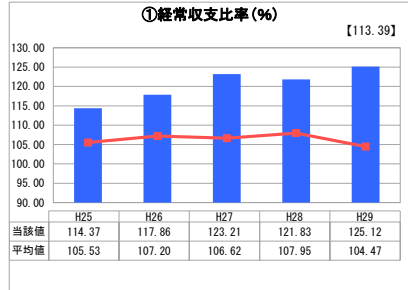
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.36	28.74	2,515	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,837	1,152.76	28.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,361	10.08	928.67

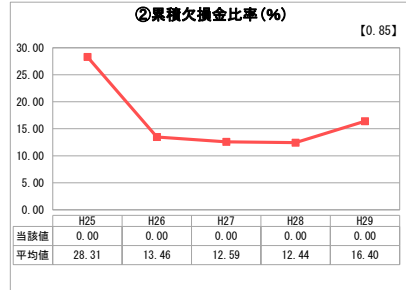
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

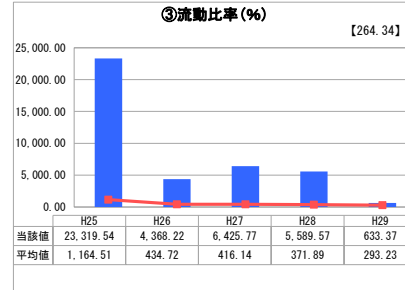
1. 経営の健全性・効率性



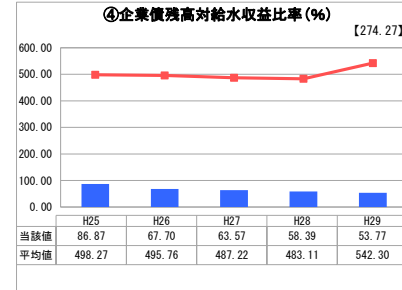
「経常損益」



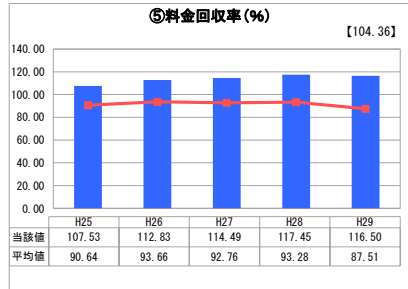
「累積欠損」



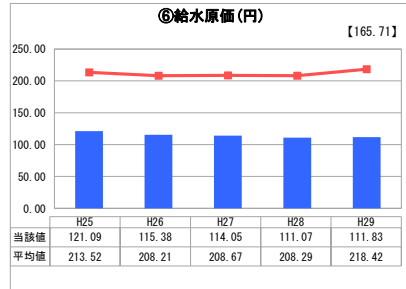
「支払能力」



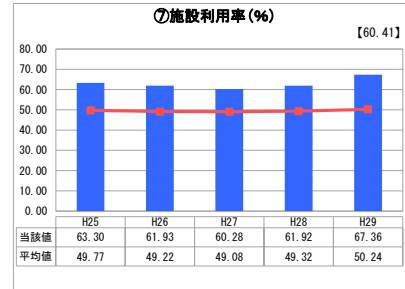
「債務残高」



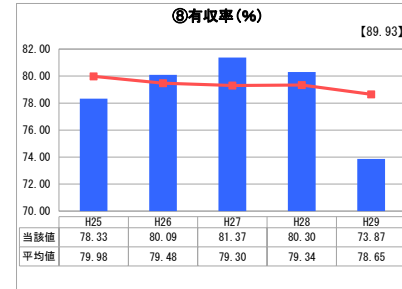
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

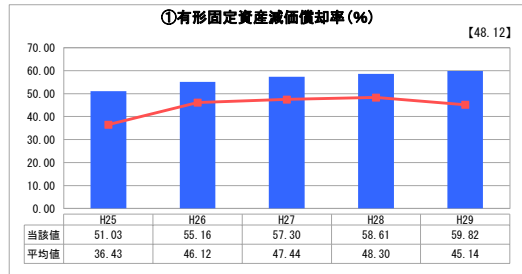


「施設の効率性」

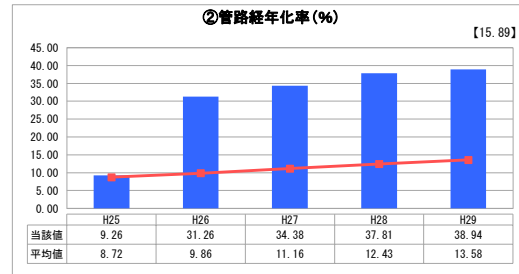


「供給した配水量の効率性」

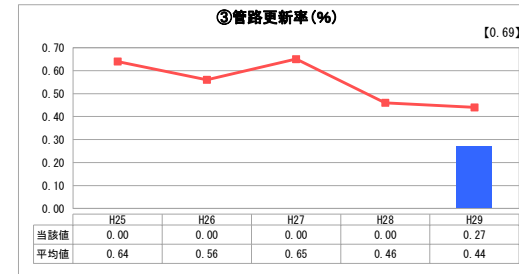
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
比率は100%以上となっており、類似団体、全国平均と比較しても高く、また経常収益では給水収益が大部分を占めており、他会計繰入金等に依存しておらず、健全性を示すものとなっている。
- ② 累積欠損金比率
欠損金は発生しておらず健全であるといえる。
- ③ 流動比率
平成28年度に比べ低下しているものの、高い水準で推移しており、短期債務に対する現金支払能力は高い状況である。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
新規の借入をしておらず企業債にたらない経営ができています。
- ⑤ 料金回収率
100%を超えており、類似団体、全国平均と比較しても高く、給水収益により給水費用を賚っており、適切な料金収入を得られている。
- ⑥ 給水原価
低い数値となっており、低コストにより供給できている状況を示すものとなっている。
- ⑦ 施設利用率
類似団体、全国平均より高く、人口減少が進んでいる中においても適度な稼働が出来ている。
- ⑧ 有収率
昨年度より減少しており、その要因は無効水量の増によるものであることから、今後老朽化対策等により維持管理の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 開設から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んできている。
平成10年度までに、石綿セメント管の全量更新を実施しており、また浄水場本館についても平成32年度の稼働開始に向けてH30年度から新築移転工事を施工中である。
管路の更新については、早急にアセットマネジメントを策定し、漏水の確率が高いと思われる管種及び管路から、順に更新していく予定である。

全体総括

①から⑥までの全項目について、経営の健全性を示す数値となっており、「良質な水源の確保により、最小経費で安定供給する」といった企業理念に適った経営となっている。
しかしながら、平成29年度は⑧有収率が類似団体、全国平均より低くなっており、老朽化対策や維持管理徹底により、一層の効率化を図っていく必要がある。
また、経営状況が良好ではあるものの、2-①②に表れているとおり、法定耐用年数に近い資産が多く増加傾向にあることから、老朽化施設の更新費用の平準化及び効率化を図るべく、アセットマネジメントの策定を進め対策を講じていきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。